



サステナビリティレポート  
**SUSTAINABILITY REPORT**  
**2025**



**NRS株式会社**

# CONTENTS

## 化学品物流をリードするNRSグループ

社長メッセージ/企業理念	3
NRSグループのビジョン	4
沿革	5
NRSグループの目指すサステナビリティ	
・持続可能な社会創出に対する考え方	6
・NRSグループのサステナビリティロードマップ	6
・SDGs達成に向けたNRSグループの重要課題	7
・サステナビリティ推進体制	8
・サステナビリティ推進に係る社内活動	8
・活動トピックス：国連グローバル・コンパクトに署名	9

## 環境

カーボンニュートラルの実現を目指して	10
CO <sub>2</sub> 排出量削減への取り組み	10
タンクコンテナのサーキュラー展開	11

## 社会：安全品質活動

安全で高品質な物流を提供するために	12
顧客に満足されるサービスを目指して	15

## 社会：人財

人財育成の強化	16
NRSのダイバーシティ推進	17
働きやすい職場づくり（ディーセントワーク）	20
健康経営の推進	21
教育研修制度の充実	21

## 社会：社会貢献

寄付支援・フードロス・地域への貢献	22
-------------------	----

## ガバナンス

コーポレートガバナンス体制図	23
リスクマネジメント	24
コンプライアンスの徹底	25

## ESGデータ

トピックス 2 NRSの源流	
バルク事業の利便性向上・汎用化への貢献が映すNRSイズム（みんなの幸せを）	30

## 会社概要

会社名：NRS株式会社  
代表者：代表取締役社長 田中 弘人  
所在地：〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-7-1  
興和一橋ビル8階  
設立：1946年12月  
事業内容  
：倉庫、通関、国際輸送、貨物自動車  
運送、貨物自動車利用運送、鉄道貨  
物利用運送、海上貨物利用運送、航  
空貨物利用運送、輸送容器のリース・レンタル・販売、3PL（サード・パーティー・ロジスティクスサービス）、物流情報システムの開発等  
資本金：20億円  
URL：<https://www.nrsgr.com>

## 編集方針

このレポートは、ステークホルダーの皆さまに当社のサステナビリティへの取り組みをわかりやすくお伝えすることを目的に編集しました。構成は、NRSグループについて、グループのサステナビリティへの取り組みについて、環境・社会・ガバナンスへのこれまでの取り組みについてならびにESGデータとなります。

## 報告対象期間

・2025年度（2024年10月1日から2025年9月30日まで）ただし、関連性のある内容については一部この期間外の情報も報告しています。

## 報告対象組織

NRS株式会社およびグループ会社

## 発行時期

2025年12月

## サステナビリティレポートに関するお問い合わせ先

NRS株式会社 経営戦略統括部  
サステナビリティ推進室  
TEL：03-5281-8145  
Email：[Sustainability@nrsgr.com](mailto:Sustainability@nrsgr.com)



N R S 株式会社  
代表取締役社長  
田中 弘人



当社のサステナビリティ経営は、企業理念である『小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを』に基づく行動目標・行動規範より行っております。

そこには、企業の成長と同時に人を育てることが最重要課題であるとともに、環境問題への取り組み、企業統治への対応が必要という認識があります。

全ての社員が仕事にやりがいを感じ、顧客からの高評価を得られる好循環な企業体系を構築、継続すること。

安全・安心・高品質な物流サービスを提供していくことが全てのステークホルダーから信頼を得るすべだと考えております。

### 企業理念「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」

物流は「製造」と「消費」をつなぐきわめて重要な役割を持ち、産業の基幹をなしています。化学製品は自動車、家電、IT、医療、食品、エネルギー等、人類社会の豊かな生活に不可欠なものです。一方でその原料の化学製品は、「燃える」「爆発する」「毒性が強い」など非常に危険な性質を持っています。この化学製品の物流にもっとも重要なもの、それは「安全」、そして「法の遵守」です。安全と法令順守、このことを基本に据えて、高品質・高効率な物流サービスを提供することが化学製品の総合物流事業者であるNRSグループの使命であります。NRSグループの社員は日ごろから自己研鑽に努め、自立的、自発的な行動のもと、顧客の要求に的確、且つ迅速にこたえられる高い品質と規模を備えた会社をつくりあげる。そのことによって顧客、取引先と社会に貢献し、広く支持されることを目指したいと思います。

社員が誇りをもって仕事をする。そして物心両面で幸せを感じられる会社。まさしく「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という創業の理念に到達できると信じるものです。



# NRSグループのビジョン

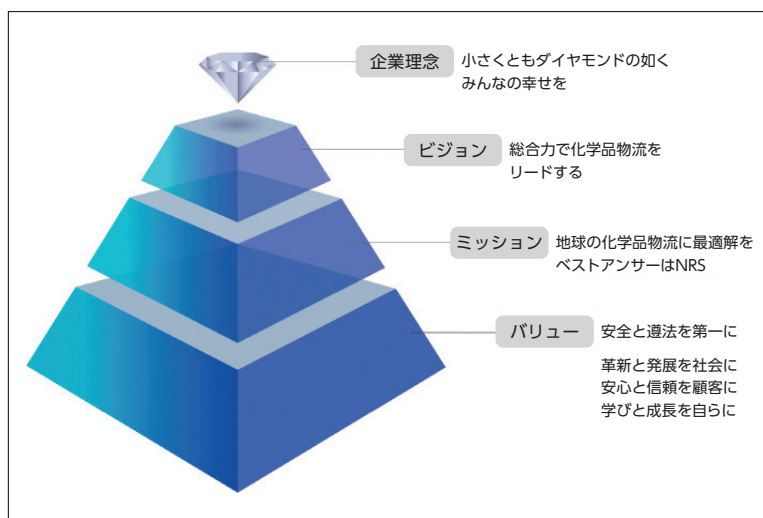
## NRSグループ理念体系の明確化

当社は企業理念に基づき企業活動を展開しておりますが、ビジョン・ミッション・バリューとの結び付きをさらに明確化し、体系図に集約いたしました。

「ビジョン」は企業理念に基づく経営目標・将来のあるべき姿を、「ミッション」は当社の存在意義として何をすべきか、何を成し遂げるべきか、社会へどのような価値を提供するのかを、そして「バリュー」はこれらを実現するための行動方針・指針をそれぞれ示したものです。

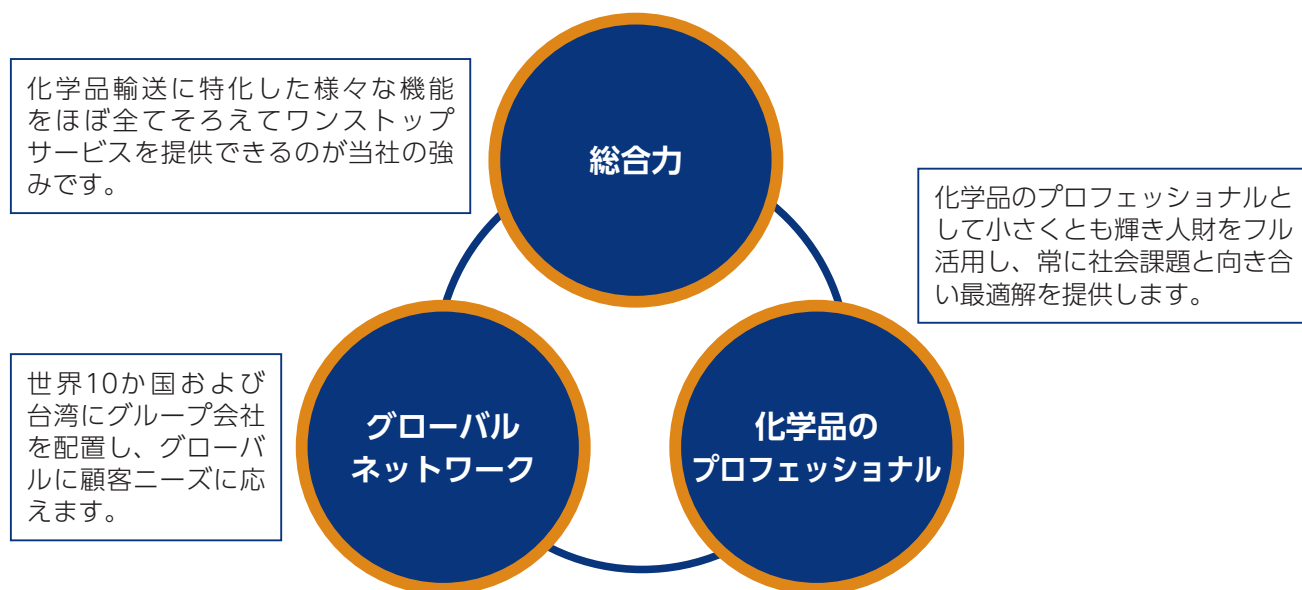
これらを明確にすることで、より効率的な組織運営およびブランドイメージの醸成を通じてサステナビリティを実現してまいります。

### NRSグループ理念体系



## NRSグループの強み

新型コロナウイルス感染拡大、ウクライナ情勢を機に、サプライチェーンの重要性が再認識されています。当社グループでは、安全と法の遵守を基本に据えて、「総合力」、「グローバルネットワーク」、「化学品のプロフェッショナル」の強みを今後も強化し、高付加価値なサービスを追求します。





1940～	<p><b>1946年 戦災タンク貨車の復旧による石油化学品の輸送販売を目的として「日本陸運産業株式会社」設立</b></p> <p>■日陸輸送株式会社、日陸倉庫株式会社設立 京葉工業地帯の石油コンビナートに大規模な危険物倉庫を開設。タンクローリー輸送事業、関西地区のタンクヤードとともに化学品業界の発展に貢献</p>
1980～	<p><b>安全で高効率なISOタンクコンテナの国内運用の道を開く</b></p> <p>■高石ケミカル株式会社設立。通関事業開始。 ■タンクコンテナ事業開始、海上タンクコンテナ事業部門開設 当時日本で国内運用が認められていなかった国際輸送用ISOタンクコンテナに注目。最大積載量24tに対応した車両を車両メーカーと共同で開発。消防関係規則の緩和を当時の政府に強く働きかけ、輸出入貨物限定で24t ISOタンクコンテナの国内通行許可を取得。さらに働きかけを続け、1999年には最大積載量が30.48tへ緩和、2004年には“輸出入貨物限定”条件が撤廃され、効率的で省資源な物流に貢献。</p> <p>■日本での輸出入の増加に伴ってトレーラーの横転事故が全国で多発。車両メーカーに共同開発を持ちかけ「横転抑止装置付海上タンクコンテナ積載専用シャーシ」を開発し、翌年当社の全事業所に配備した。</p> <p>■米国・ニューヨークに現地法人NRS America Inc.設立 [現NRS LOGISTICS AMERICA INC.] ■英国インターフロー（タンクコンテナシステム）社を買収し、NVO事業を開始 [現NRSオーシャンロジスティクスリミテッド] ■IBCのレンタル・販売開始 ■シンガポールに現地法人NRS Singapore Pte. Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.]</p>
2000～	<p><b>中国交通部の要請で本格的な危険物倉庫を開設</b></p> <p>■中国・上海に合併会社上海日陸外聯発物流有限公司設立 ■無機シアン化合物またはフッ化水素若しくはこれを含有する製剤の運搬については、輸送数量が10kl 以下に制限されていたが、当社が事務局を務める日本危険物コンテナ協会を通じて、長年にわたり熱心に関係省庁に働きかけたことにより、IMO基準にISOタンクコンテナであれば容量の制限なく運搬が可能となり、当社が最初に無水フッ化水素の国内輸送を手がけた。</p> <p>■中国・上海に保税危険物倉庫開設 当時、中国の危険物倉庫は小屋のような建物に消火器がある程度のものであった。中国交通部が危険物物流の視察に来日した際に対応していた縁で、上海での危険物倉庫運営の要請があり、上海港に保税危険物倉庫を開設。</p> <p>■航空貨物輸送事業部門開設</p> <p><b>2008年 社名を「株式会社日陸」に変更</b></p> <p>■医薬品、医薬部外品、化粧品、製造業（包装・表示・保管）許可取得 IATA貨物代理店認可取得 ■IT点呼の考案 乗務員の健康管理と安全確保の基盤となる点呼は、深夜、早朝に行われることが多く、運輸事業者の間では大きな経済的、人的負担となっていた。そこでITを活用したIT点呼を考案し、国土交通省で認可を得て、安全運行と業務改善の向上につなげた。</p> <p>■東京税関より認定通関業者（AEO制度*）認定を国内第1号として取得 ■環境ISO14001認証取得</p>
2010～	<p><b>日本で培った安全品質物流のノウハウを展開</b></p> <p>■韓国・ソウルに現地法人NRS LOGISTICS KOREA CORPORATION設立 [現NRS LOGISTICS KOREA CO., LTD.] ■タイ国・バンコクに現地法人NRS Logistics (Thailand) Co., Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.] ■台湾・台北市に台湾支店開設 ■NRS Logistics Vietnam Co., Ltd.設立 ■東京税関より特定保税承認者（AEO制度*）の承認取得 ■ベトナムに現地法人NRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.設立 同国初 日本品質の危険物倉庫を開設へ</p>
2020～	<p><b>2022年 社名を「NRS株式会社」に変更</b> <b>2023年 熊本支店開設</b> <b>2024年 台湾日陸物流股份有限公司営業開始</b> <b>2025年 「NRS LOGIOS AMERICA INC.」（米国アリゾナ）開設</b></p>

\*AEO制度：貨物のセキュリティ管理と法令遵守（コンプライアンス）の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



輸送事業



倉庫事業



タンクヤード事業



コンテナ事業



フォワーディング事業



IT点呼の様子



NRS LOGIOS AMERICA INC.



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## 持続可能な社会創出（サステナビリティ）に対する考え方

NRSグループは化学品・危険物物流のリーディングカンパニーとして、地域や環境への負荷を軽減する事業活動を徹底しています。

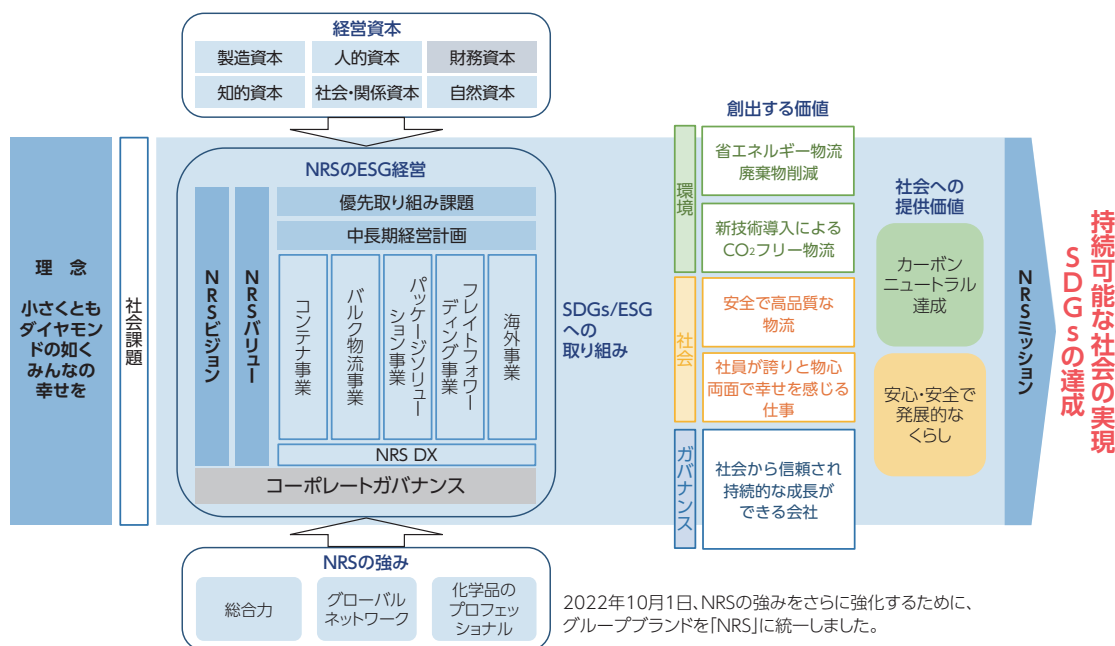
これからもSDGs/ESGに配慮した企業活動を継続し、持続可能な社会の創出に貢献します。



## NRSグループのサステナビリティロードマップ

企業理念を頂点とするグループ理念体系を明確にしました。

企業理念およびグループのビジョン・ミッション・バリューをグループ全社員が自覚し、当社の強みと経営資本をフル活用し、持続可能な社会の実現へ邁進します。



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## SDGs達成（2030年）に向けたNRSグループの重要課題（マテリアリティ）



### CO<sub>2</sub>排出の削減

変動要因はGHG（主にCO<sub>2</sub>）であり、その主要発生源は化石燃料と電力です。燃料については脱化石系への切り替えを使命とし、水素・EV・バイオマス等への代替を進めます。電力については太陽光発電の取り込みや電力購入先の再生可能系への転換を計画的に進めます。また、省エネルギー・省資源化への取り組みは日常作業として定着に努めます。

### コンプライアンスの徹底

関係法令の遵守はもとより、社内規程や作業マニュアルに至る全てのルールの遵守を徹底しています。コンプライアンス委員会を通じて法令の遵守状況を確認し、管理監督および必要に応じた是正を進めています。

### 多様性の尊重と働きやすい職場づくり

少子高齢化の中で優秀な人財を確保・育成し、成長し続ける企業であるために、ダイバーシティを推進しています。グローバルスタッフの積極的な採用、定年制度の延長などに加えダイバーシティ推進プロジェクトを立上げ、「女性活躍推進」および「仕事と家庭の両立支援」にも傾注しています。また、組織の活力である社員が十分に能力を発揮できるように、ワークライフバランスを重視した制度の拡充や、多彩な教育研修の計画と実施を進め、安全で働きがいのある職場づくり（ディーセントワーク）に取り組んでいます。

### 安全で高品質な物流の提供

化学品は社会の発展に大きく寄与します。しかし、大気・水質・土壌等環境への悪影響や大規模災害につながるリスクの考慮が欠かせず、取り扱いには専門的な知識・技能や経験が必要となります。NRSグループでは、化学品物流のプロフェッショナルとして安全で高品質な物流を提供するために積極的な人財育成、物流荷役設備の整備・予防保全、DXのさらなる推進に取り組んでいます。

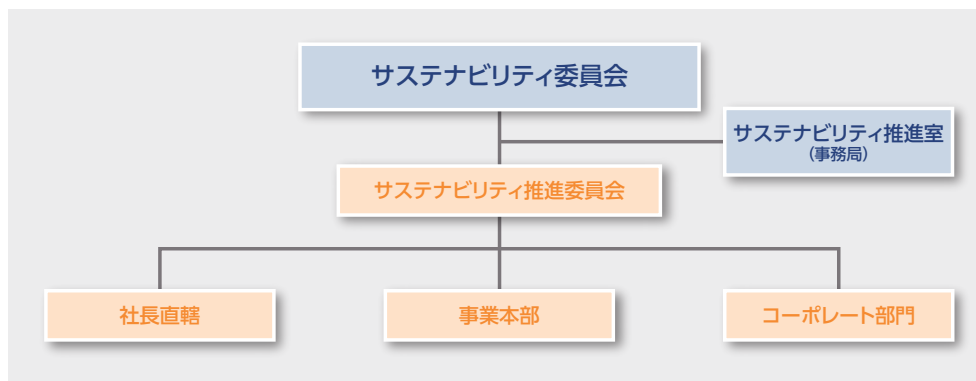


# NRSグループの目指すサステナビリティ

## サステナビリティ推進体制

NRSグループは、事業を通じて環境・社会課題解決に貢献しながら持続的な成長を達成すべく、代表取締役社長を委員長としたサステナビリティ委員会で重要方針を策定し、その下部組織であるサステナビリティ推進委員会の活動を通しESG推進に積極的に取り組んでおります。

サステナビリティ推進体制図



## サステナビリティ推進に係る社内活動

2024年10月	25年度第1回サステナビリティ委員会開催
2024年11月	「無水フッ酸安全講習会」開催
2024年12月	「サステナビリティレポート2024」発行 NRS大阪物流センター 地域清掃活動実施
2025年1月	ダイバーシティに関する社長メッセージ掲載
2025年2月	北米向け危険品海上混載輸送サービス開始 土気流通センターに高圧ガス倉庫を開設
2025年3月	25年度第2回サステナビリティ委員会開催
2025年4月	女性活躍推進法に基づく行動計画（第2期）策定 「TRANSPORT LOGISTIC 2025」に出展
2025年5月	25年度第3回サステナビリティ委員会開催 当社サーバーへの不正アクセスに関する報告（1報・2報・3報）
2025年6月	米国アリゾナの総物流拠点「NRS LOGIOS AMERICA INC.」開設 NRSグループ安全大会開催@東京
2025年7月	国連グローバル・コンパクトに署名 ▶活動トピックスへ
2025年8月	25年度第4回サステナビリティ委員会開催 「ファミリーデー@千葉物流センター」開催



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## 活動トピックス：国連グローバル・コンパクトに署名

NRS株式会社は、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト(United Nations Global Compact、以下UNGC)」に署名し、2025年7月18日に参加企業として登録されました。併せて、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)」に加入したことをお知らせいたします。

UNGCは、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みで、UNGCに署名する企業・団体は、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野に関わる10の原則を遵守・実践し、企業戦略や活動を展開して行くことが求められます。

NRSグループは、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」を企業理念に掲げ、「総合力で化学品物流をリードする」ことをビジョン（経営目標）として、物流を通じた社会課題の解決に取り組んでまいりました。今回の署名および加入を機に、より一層責任ある企業行動を推進し、持続可能な社会の実現に向けて、企業活動全体の強化に努めてまいります。



JOIN DATE  
2025/7/18

### CERTIFICATE OF JOINING THE UN GLOBAL COMPACT

is given to

## NRS CORPORATION

for committing to respect the ten principles of the United Nations Global Compact,  
to take action in support of Sustainable Development Goals  
and to submit annually a Communication on Progress.

#### HUMAN RIGHTS

1. Businesses should support and respect the protection of internationally proclaimed human rights; and
2. make sure that they are not complicit in human rights abuses.

#### LABOUR

3. Businesses should uphold the freedom of association and the effective recognition of the right to collective bargaining;
4. the elimination of all forms of forced and compulsory labour;
5. the effective abolition of child labour; and
6. the elimination of discrimination in respect of employment and occupation.

#### ENVIRONMENT

7. Businesses should support a precautionary approach to environmental challenges;
8. undertake initiatives to promote greater environmental responsibility; and
9. encourage the development and diffusion of environmentally friendly technologies.

#### ANTI-CORRUPTION

10. Businesses should work against corruption in all its forms, including extortion and bribery.

For information on what participation in the UN Global Compact means and for the current standing of participants, visit [www.unglobalcompact.org](http://www.unglobalcompact.org).



# 環境

物流事業における環境負荷は避けられません。いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

## 環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務およびその付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO<sub>2</sub>の排出削減等、次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。

(営業所、グループ会社が行う環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

1. 大気汚染防止、水質汚濁防止および地球温暖化防止対策
2. 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

## ■ カーボンニュートラルの実現を目指して

NRSでは政府方針を前倒し、2046年創立100周年の節目にカーボンニュートラル達成を目指しています。

当面の目標である2030年電力の脱炭素化完了に向け、2025年度は国内1拠点で電力契約の見直しを行い、国内14拠点でCO<sub>2</sub>フリー電力導入を完了しました。

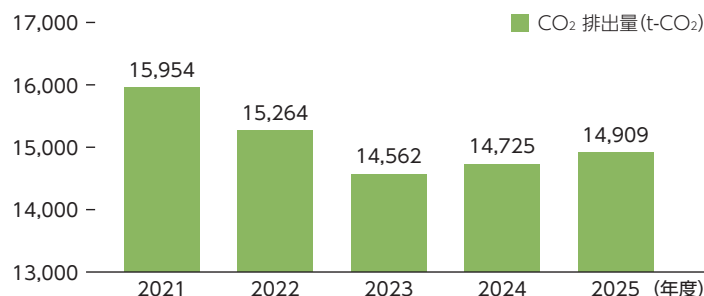
また、現状可視化推進策としてScope管理へ着手、計画的な脱炭素化を今後も継続します。

## ■ CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

NRSでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量を把握しています。

2025年度は、CO<sub>2</sub>フリー電力導入を進め電力に関わるCO<sub>2</sub>109t<sub>〓</sub>の削減を実現しましたが、軽油等の使用量増加のため全体としてCO<sub>2</sub>184t<sub>〓</sub>増加しました。

今後もカーボンニュートラルが達成できるように取り組んでまいります。



## Scope別CO<sub>2</sub>排出量

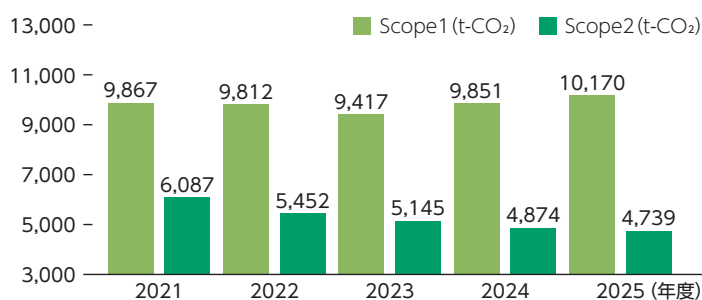
NRSでは2046年のカーボンニュートラルへ向け、2019年度よりScope1, Scope2の集計を行っております。

直近5年間で電力に関わるCO<sub>2</sub>排出量は確実に下がっていますが、軽油等は稼働増加のため増えました。

2025年度Scope別CO<sub>2</sub>排出量

Scope1（軽油、重油、ガソリン、灯油、LPG、都市ガス）： 10,170t-CO<sub>2</sub>

Scope2（電気、蒸気）： 4,739t-CO<sub>2</sub>

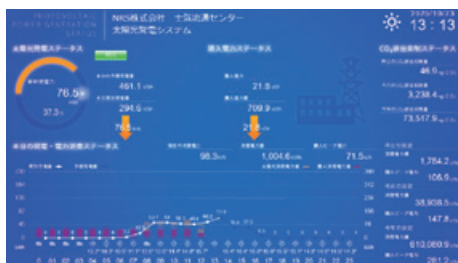


## 省エネ・再エネ化推進の具体事例は下記の通りです

1. CO<sub>2</sub>フリー電力導入：国内29拠点中14拠点で切り替え実施
2. 太陽光発電設置：国内物流センター5拠点および熊本支店に設置
3. 照明LED化：国内倉庫全拠点に設置
4. エコドライブの推進：国内トラック業8拠点でグリーン経営認証取得



土気流通センターに設置した太陽光パネル



太陽光発電状況

## ■ タンクコンテナのサーキュラー（エコノミー）展開

ISOタンクコンテナ、IBC等は製品積載後洗浄してリターナブルな容器として長期にわたり使用できただけでなく、タンク本体は耐食性の高いステンレススチールで製作されており老朽化して代替する際にはスクラップ処理を通して、ステンレススチールとしてリサイクルされていきます。

本年度は老朽化コンテナ100基を廃棄、リサイクル工程へ回しております。

NRSは引き続き代替エネルギー用タンクコンテナ、溶剤用金属製小型容器などの様々な種類のリターナブル容器の開発、導入を実現することで環境負荷低減、廃棄物の削減および限りある資源の有効活用を行ってまいります。

## 環境汚染の防止

大気・水質の維持・改善を確実に実行しています。環境値管理の徹底で環境トラブル発生ゼロを継続しています。また、環境ISO認証の取得範囲を広げています。2025年度は中部物流センターおよび東海倉庫、九州物流センターで新たに認定取得しました。



# 社会： 安全品質活動



危険物を取り扱うNRSグループにとって、「安全」は事業の根幹であり社会への責務です。社員一人ひとりが危険を予知して事故を防げるよう、計画的且つ徹底した安全品質管理を行っています。

**安全方針**  
**事故のない会社**  
**規律正しい社員の伝統的信用を引き継ぐ**

## 安全で高品質な物流を提供するために

### 安全推進委員会

社長を委員長とし、安全目標およびNRSグループマネジメントプログラムを策定します。委員会は年1回開催し、PDCAを回しています。

#### 2025年度安全目標

**重大事故ゼロを継続**

**環境事故ゼロを継続**

### 安全大会

2025年は5月24日に開催、コンテナ事業部のコンテナデポ3事業所とバルク物流事業部の油槽所4事業所が、事故対策と安全への取り組みに関する発表を行いました。発表を通じて大勢の参加者が、安全と品質維持に関する意識を向上させました。(151名が参加)

今後も安全目標達成のため、One NRSとして事故予防に努めてまいります。





## 社長安全巡視

2025年度は、九州・周南地区、中部地区、新潟地区で社長安全巡視を実施しました。社長が各拠点を巡視の上、危険個所の抽出および問題点の話し合い、業務改善につなげています。また、巡視終了後、安全会議を開き意見交換を行うことで、さらなる安全活動の強化に役立てています。



## 重大事故防止強化月間

過去の教訓を風化させないことを目的に、重大事故が発生した月間を対象に「強化月間」を毎年設定し、ポスターによる啓蒙、事故の発生状況、原因および対策について再学習しています。対策の維持状況の確認、類似作業の洗い出しなど、全社員が実施し、類似事故の再発防止に努めております。

1月	転落事故防止
2月	酸欠事故防止
5月	横転事故防止
7月	圧力・被液・荷役機器事故防止
8月	誤出荷・誤納入事故防止

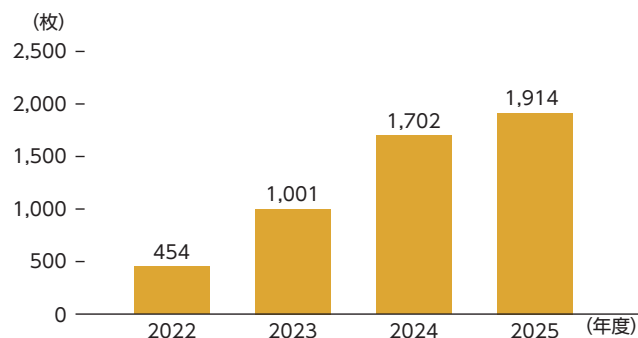
## H（ヒヤリ）H（ハット）K（気がかり）カードの活用

ヒヤリ・ハット・気がかりな事例を記録に残し、社内へ水平展開することで事故削減へつなげています。

2024年度よりNRS独自の安全品質活動KPIを設定し、拠点安全品質活動の活性化により、社員の安全品質意識を高める活動を行っております。

HHKカード提出枚数

2022年度	454枚
2023年度	1,001枚
2024年度	1,702枚
2025年度	1,914枚



## 防災訓練実施状況

年に1回、全国の物流センター・タンクヤード・コンテナデポにて災害を想定した防災訓練を行っています。避難訓練、放水訓練、漏洩対応訓練等を行い、緊急時にしっかりと行動できるように真剣に取り組んでいます。



## 化学物質管理の徹底

化学物質による事故防止のためリスクアセスメント管理規則を制定し、新規取扱時や変更時のリスクマネジメントを徹底しています。



## 安全に関する外部表彰 2025年4月～7月

年月	表彰名	表彰元	受賞対象
2025年4月	物流部長賞（計画外輸送への迅速対応）	MC株式会社様	北九州事業所
2025年6月	危険物安全協会表彰	危険物安全協会	中部BC担当者
2025年7月	安全QA表彰	MB物流株式会社様	名古屋ケミポート

## その他の外部評価

ecovadisバッジを取得しました。



## 顧客に満足されるサービスを目指して

品質方針：

「顧客が満足する物流の品質・プランを提供し社会に貢献する」

### 品質環境マネジメント委員会

社長を委員長とし、品質環境目標およびNRSグループ品質環境活動計画を策定します。  
委員会は年1回開催し、PDCAを回しています。

### 安全規則の徹底と教育指導

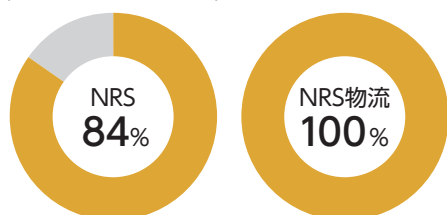
危険物物流に必要な専門的知識の維持・習得を目的に、当社では毎年全社員を対象に勉強会を開催しています。  
内容は危険物関係法令・IMDG CODE（国連機関で定めている危険物輸送規制）、AEO制度等です。  
また、部門毎に専門的な研修も行い、安全で高品質な物流サービス提供に努めています。

### 危険物取扱者の資格取得奨励

当社では間接部門の社員にも資格取得を促しています。

危険物取扱者乙種4類（甲種含む）取得率

（2025年9月末時点）



# 社会：人 財

## 社員が誇りと物心両面で幸せを感じる仕事

企業が持続的に発展するためには、「組織としての多様性」が不可欠であると考え、誰もが活き活きと働き活躍できる職場を目指し、多様性の尊重（ダイバーシティ）や働きやすく人間らしい仕事（ディーセントワーク）を維持しています。また、顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係の維持に努め、良き「企業市民」であるとともに海外諸国の文化慣習を尊重する良き「国際人」たることを目指します。

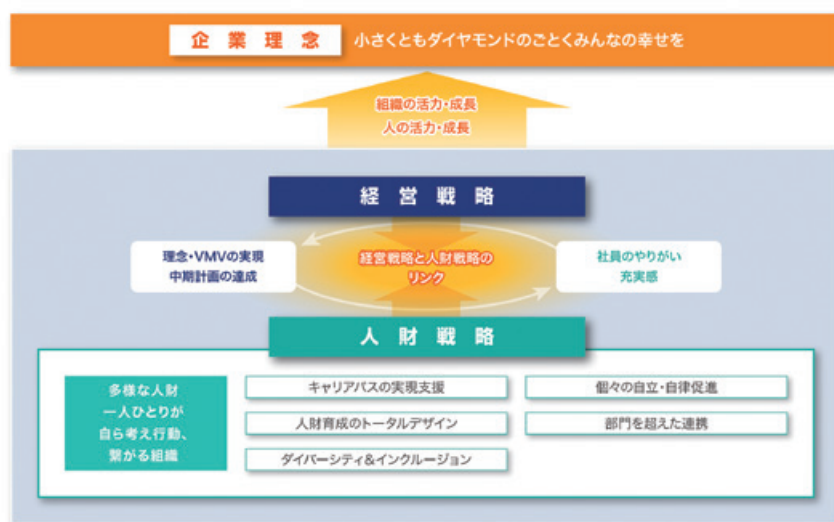
## ■ 人財育成の強化

### 基本的な考え方

ますます高度化するNRSの業務を遂行し、ビジョンに掲げる“総合力で化学品物流をリードする”を達成するためには、人財育成の強化は必要不可欠です。多様性を尊重・推進し、学び・経験を通じて人財が育成される“人財が育つ仕組みづくり”に挑戦しています。

経営戦略に沿ったグローバルな人員計画をベースに、個々人の適性・能力およびキャリアプランに基づく配置により、環境変化に対応できる人財、グローバル化に挑戦・活躍できる人財を含め、各分野でプロフェッショナルな人財を育てています。また、それぞれの部門が相互に強く連携する集団の形成を目指します。

### NRSの人財戦略



### 求める人財像





## ■ NRSのダイバーシティ推進

### 社長メッセージ

NRSは、すべての人が働きやすい、開かれた職場づくりを目指し、多様性の尊重(ダイバーシティ)や働きがいのある仕事と職場づくり(ディーセントワーク)を推進します。

これは、私たちの企業理念「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」に象徴され、会社に関わるすべての方々の幸福を願うもので、性別や人種を問わず、皆が公平に活躍できる社会を目指す強い思いが込められています。この理念を追求することでダイバーシティ推進につながり、社員一人ひとりがやりがいや生きがいを感じながら、充実した人生を送ることができると確信しています。

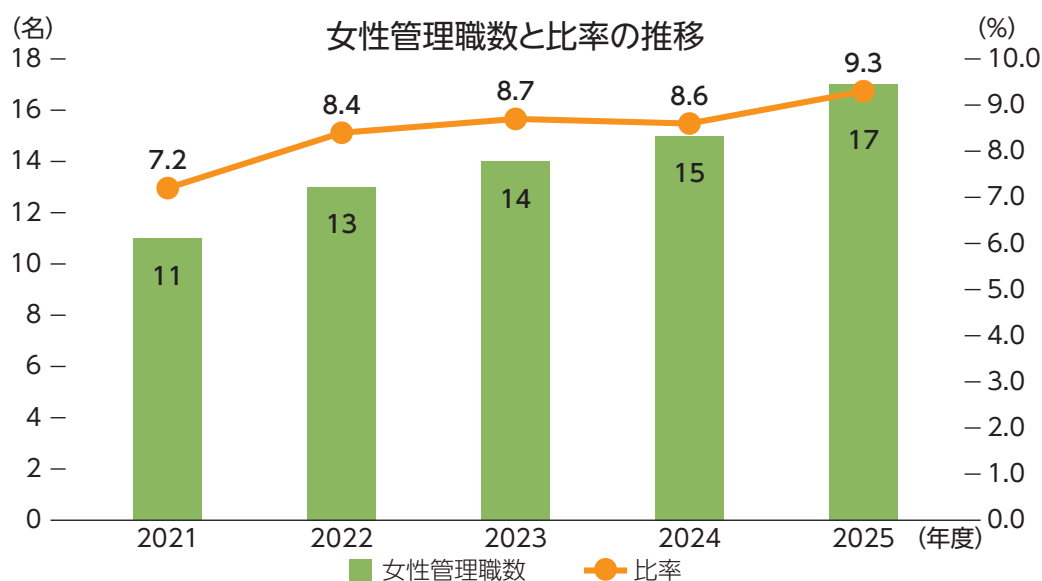
1946年の創業以来、NRSは長い歴史を歩んできましたが、これからの成長の鍵は人財育成にあると考えています。AIや自動化が進む時代においても、人間の役割は変わらず重要です。どれほど優れた技術を導入しても、企業の成長を支えるのは、多様な背景を持つ人財の力です。個々のライフスタイルや状況に応じた支援を行い、柔軟な働き方をサポートすることで、社員が充実した仕事生活を送れるよう努めています。

NRSは、これからも顧客、取引先、社員、株主を含む幅広いステークホルダーとの良好な関係を大切に、良き「企業市民」として、さらには海外諸国の文化や慣習を尊重する良き「国際人」としての役割を果たしてまいります。

### 女性の活躍

NRSは、厚生労働省が定める女性活躍推進企業認定「えるぼし認定」の最高位を獲得しています。

当社では女性管理職比率の向上や継続就業の男女差軽減に向けた、キャリアアップ研修の実施、制度の整備等を通じて、男女ともに働きやすい職場づくりに取り組んでいます。



### 子育てサポート

次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業として、厚生労働大臣より「くるみん」の認定を受けました。

当認定は、次世代育成支援対策推進法に基づき策定した行動計画を実施し、定めた目標を達成することなど、一定の要件を満たしていると認められた場合に、厚生労働大臣(都道府県労働局長へ委任)から受けることができる認定です。

当社では、ワークライフバランスのとれた多様な働き方を支援する取り組みや、男性育児休業取得促進に向けた取り組みが評価されました。

今後も、社員が仕事と子育てを両立しながら、生き活きと働き続けられる職場づくりに積極的に取り組んでまいります。



女性リーダー育成支援プログラム

将来のリーダー候補として期待される女性社員の成長を支援するため、NPO法人「J-Win\*」が主催するHigh Potential Network (以下HPN)に参加しています。

HPNは、異業種の女性社員が集まり、リーダーシップやキャリア形成について学ぶ、1年間にわたる実践型のプログラムです。

約200名の参加者たちとともに、月に1回の定例会、分科会や講義等、様々な活動を通じて知見を深め、自身のキャリアアップ意識を確立していきます。

2023年から毎年4～5名の派遣を行っており、毎年3月には1年間の活動を終えたメンバーの修了報告会を実施しています。

\*特定非営利活動法人ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク：企業のダイバーシティ・マネジメントの促進と定着、女性リーダー育成を推進支援するNPO法人



修了報告会

ダイバーシティ推進プロジェクト

ダイバーシティ推進プロジェクトは2020年に発足しました。

プロジェクトの使命は、「誰もが働きやすい職場環境の整備」。

メンバーは当初3名でしたが、現在は有志で集まった7名へ増員し、活動の幅を拡大しています。

プロジェクトでは、主に「女性活躍推進」や「仕事と家庭の両立支援」に関する取り組みを行っています。

2025年度は、産休・育休ガイドラインの見直しや男性育休レポートの配信に加え、労働時間削減をすべくリフレッシュデー（ノー残業デー）や時短勤務制度\*の利用推進キャンペーンを実施しました。

今後もこのような施策を継続的に行うことで、「誰もが働きやすい職場環境の整備」に取り組んでまいります。

\*時短勤務制度：その日の業務が早く終了した場合、就業時間を最長1時間まで短縮可能とする制度

推進体制、主な活動成果(表-1)および今後の活動に対する目標(表-2)は下記の通りです。

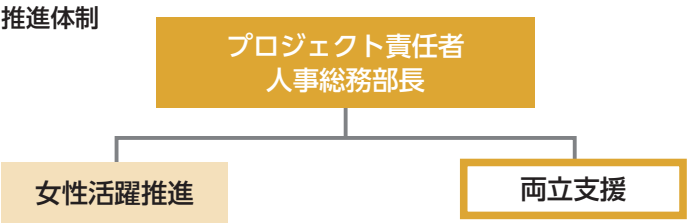


表-1 主な活動成果

年度	内容	
2020年	ジョブカムバック制度	導入
	配偶者同行休職制度	導入
2021年	育児短時間勤務制度	中学校就学まで延長
	育児・介護フレックスタイム制度	導入
	産休・育休ガイドライン	策定
2022年	えるぼし認定（最高位の3つ星）	配信開始
	男性育休レポート	
2023年	J-Win派遣開始	新設
	不妊治療サポート	
2024年	くるみん認定	コアタイム廃止
	育児・介護フレックスタイム制度	
	不妊治療のための休暇設定	
	企業型ベビーシッター割引券	
2025年	労働時間削減への取り組み	開始
	女性管理職インタビュー企画	配信開始

表-2 今後の活動に対する目標

期間
2029年9月までの5年間
目標①
女性管理職比率を2倍へ 14名(10%) ➡ 28名(20%)
目標②
平均残業時間を10時間以内とする 16.2時間* ➡ 10時間以内
*2024年度の平均（2024年4月～2025年3月）

## 男女賃金格差是正への取り組み

男女賃金格差（是正対策）格差要因は①非正規社員比率②女性管理職比率③育児や家事の負担比率と言われています。

NRSではこれらへの対策を鋭意進めております。

1. ジョブカムバック制度（特に女性の復職を奨励、正規社員として再雇用する制度）設置
2. 女性に特化した育成プログラムの実施、意識調査を毎年実施し本音の共有推進
3. 働きやすい職場認定では3つ星獲得、勤務時間帯選択の自由度拡大、在宅勤務、休暇取得や残業削減対策へはダイバーシティ推進プロジェクトで対応推進・支援中

## シニアの活躍

全社員が物心両面で豊かな人生を長く送れるよう、一人ひとりが生き活きと長く働くことのできる場を提供するため、2022年10月より社員の定年年齢を60歳から65歳に引き上げました。

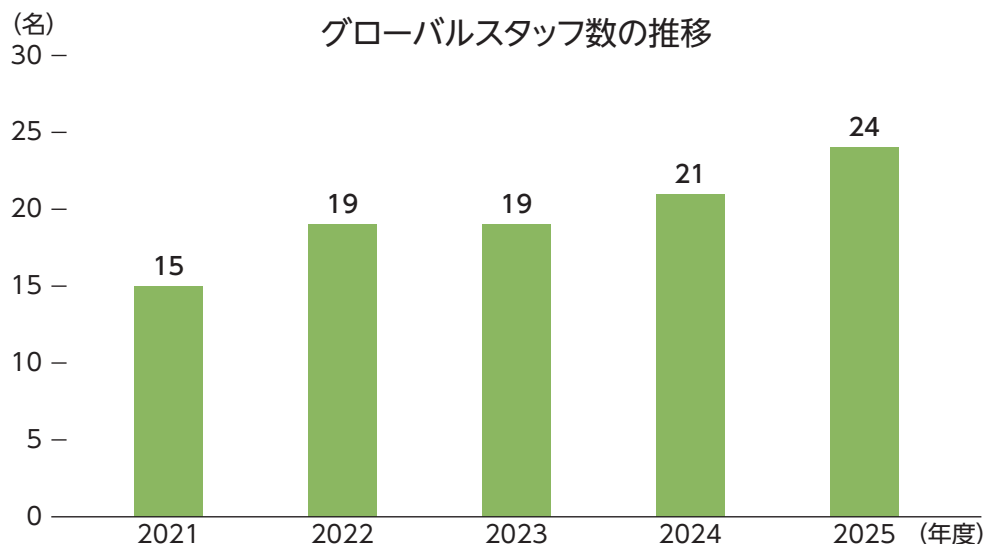
新たなグループ会社として設立した株式会社NRSバリュークリエイトでは、豊富な経験・知識・技能を有するシニア層が活躍できる仕組み・環境を整えており、業務量や勤務日数・時間などの調整が一定の範囲内で可能です。グループ内で唯一副業も認めており、柔軟な働き方のニーズにこたえています。

設立から3年を経て、現在23名の社員が在籍し、一人ひとりが「NRSグループの価値創出と向上に貢献する」ことを旨としながら、日々生き活きと活躍しています。

## グローバルスタッフの採用とサポート

海外事業をさらに拡大するとともに、グローバルスタッフの採用にも積極的に取り組んでいます。

2019年度より台湾を中心とした就職採用面接を実施し、台湾の他にも中国、韓国、ベトナム、マレーシア、フランスの24名のグローバルスタッフが活躍しています。



## 障がい者の活躍

「障害のある人もない人もともに働ける企業」であることを目標に、障がい者雇用にあたっています。

障がい者の方も組織の一員としての実感を持ち、スキルを積みながら生き活きと活躍ができるよう支援し、安心して長く働けるよう努めています。また障がい者支援担当者には厚生労働省で定める「企業在籍型ジョブコーチ」や「障害者職業生活相談員」の資格取得推進を図っております。



## ■ 働きやすい職場づくり（ディーセントワーク）

### 働きやすい職場認証の取得

2023年より、運転者職場環境良好度認定制度（働きやすい職場認証制度）において、輸送部門を有する全ての拠点で「3つ星認証」を取得しています。  
今後もさらなる職場環境の改善に向け、行動してまいります。

### 安全衛生委員会

社員の労働安全および衛生に関する事項の審議・調査を本委員会ですべて毎月行っています。  
労働災害防止や健康障害防止対策から安全衛生管理者の職場巡視、安全品質部門による安全パトロール、安全・衛生・健康に関する研修企画の立案・実行を計画的に進めています。NRSグループでは、50名未満の事業所においても定期的な協議の場を設け、安全・高品質な物流サービスの提供に努めています。

### エンゲージメント調査

社員のエンゲージメント向上を目的として、当社では年に1回、全社員を対象にエンゲージメント調査を実施しています。

4回目となる本年度の調査でも、日本国内および海外の社員を対象とし、よりグローバルな視点での意見収集を行いました。

その結果、参加率は83%と昨年度の73%から大幅に向上し、より多くの社員の声を反映できる調査となりました。自由記述欄には、「会社をもっと理解したい」といった意欲的なコメントが多数寄せられました。今後は社員一人ひとりがより自身の成長を感じられるよう、キャリア支援や挑戦機会の拡充、そして国内外を問わず活発なコミュニケーションの場づくりをさらに強化していきます。

引き続き、社員の声を大切にしながら、働きがいのある職場環境の実現を目指してまいります。

### 社員エンゲージメント調査の結果

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
参加率	75%	81%	73%	83%
エンゲージメント指標*	81.5%	81%	82%	80%

※エンゲージメント調査設問6問において、好意的な回答をしている社員の割合

### ファミリーデーの開催

本社および千葉地区の社員とその家族を対象に「ファミリーデー」を実施しました。「ファミリーデー」は、家族が職場を訪れることで社員の仕事への理解を深めていただくとともに、ワークライフバランスの推進や社内コミュニケーションの活性化を目的としています。

今後もNRSグループは、社員とその家族とのつながりを大切にしながら、エンゲージメント向上に取り組むとともに、未来を担う世代に学びや体験の場を提供する活動を続けてまいります。



構内見学の様子



家族の同僚と名刺交換





## 健康経営の推進

NRSグループでは、全ての社員と家族が心身ともに健康で、活き活きと働ける環境づくりを経営課題の一つと位置付け、2021年度から健康経営に取り組んでいます。2025年度からは企業理念のもと、メンタルヘルス・生活習慣病に係る施策をより戦略的に強化し、社員のヘルスリテラシーと生産性のさらなる向上を目指しています。

1. 定期健診オプション検査の補助金支給
2. 特定保健指導・定期健診後再検査の受診勧奨
3. ストレスチェック集団分析の活用
4. 健康管理のDX化・情報連携の強化
5. 社会貢献活動への健康促進の組み込み

上記に加え、産業看護師が定期的に本社を訪問し、社員との健康・メンタル相談を対面やオンラインで実施しています。

## 教育研修制度の充実

中期経営計画「NRS 2027」では、「グローバル化のさらなる加速」を経営方針の一つと位置付け、グローバルタレントの採用および育成を最重要課題としています。グローバル市場は変化が激しく多様化しており、当社は事業をさらに成長させ飛躍させるために、人的資本の強化と社員の成長を目的とした教育研修制度を導入しています。

2023年度からは、国内同様にグローバルにも展開し、社員一人当たり年間10万円の教育予算を活用して、多くの社員が自己研鑽に励んでいます。

また、従来の階層別研修に加え、テーマ別の選抜研修にも力を入れ、さらなる社員のやる気と能力アップを目指しています。

### 2025年度教育研修の例

- |                   |               |                |
|-------------------|---------------|----------------|
| ■新入社員研修/現場見学会     | ■テーマ別選抜研修     | ■各種勉強会         |
| ■現場研修(新卒・キャリア採用)  | ・グローバル研修      | ・各種危険物法規勉強会    |
| ■フォローアップ研修(1～5年目) | ・DX推進者研修      | ・事故対策勉強会       |
| ■シニアマインドセット研修     | ・女性キャリア研修     | ・AEO(保税・通関)勉強会 |
| ■経営幹部候補者研修        | ■自己啓発         | ・情報セキュリティ教育    |
| ■VMV勉強会           | ・語学講座(英語・中国語) | ・コンプライアンス教育    |
| ■管理職研修            | ・通信教育         | ■ライフプランセミナー    |



新入社員 現場見学会



海外スタッフとのVMVワークショップ



5年目フォローアップ研修

## 社会：社会貢献



NRSグループは、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という企業理念のもと、幅広い社会貢献活動に取り組んでいます。

### ■ 寄付支援

2009年からスタートした、社員からの寄付金に会社から同額を加えて寄付を行う「マッチング募金」を継続しています。2024年度からは「日本ユニセフ協会」、「交通遺児育英会」、「認定NPO法人カタリバ」の3団体へ寄付を実施し、2025年度のマッチング募金による寄付金総額は726,000円となりました。マッチング募金のほか、「日本ナショナルトラスト」、「WWFジャパン」、「日本電動車椅子サッカー協会」との協賛金寄付による支援を実施しています。

### ■ フードロス

NRSグループでは、フードバンクへの寄贈活動を行っています。フードバンクとは、品質には問題がなく廃棄されてしまう食品を募り、食品を必要とするNPOや福祉施設などへ譲渡する活動です。

1月に備蓄食品を買い替えるため、セカンドハーベスト・ジャパンヘライスクッキーを寄贈し、総数は12箱となりました。



### ■ 地域への貢献

本社および事業所では、地域清掃活動に積極的に取り組んでいます。

#### 1. 本社(千代田区)

本社が所在する東京都千代田区では、「千代田区一斉清掃の日」が定められており、当社も継続してこの活動に参加しています。2025年度からは、社員の健康増進の観点も加え、清掃活動とウォーキングを組み合わせた「NRSクリーンウォーキング」として実施しました。

#### 2. 熊本支店(大津町)

社団法人熊本県トラック協会主催の「環境クリーンキャンペーン」に参加し、幹線道路やその周辺地域において清掃活動を実施しています。

#### 3. 土気流通センター(千葉市)

千葉県にある同センターでは、センター周辺の清掃活動を年2回定期的に行っています。

# ガバナンス

## 社会から信頼され持続的な成長ができる会社

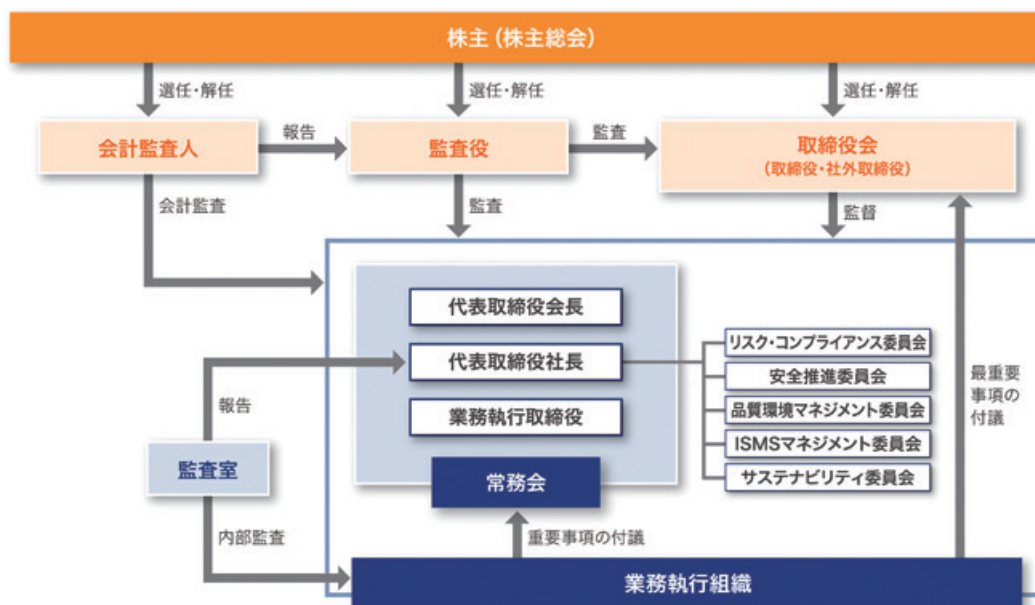
私たちが扱う化学品は、社会により豊かさと幸せを与えるものであり、その化学品産業の基幹をなすのが私たち物流事業です。物流業が産業の基幹をなしていることに誇りを持ち、社会的責任を果たします。

NRSグループの事業活動の基盤は「NRSグループ企業倫理綱領」です。「倫理に基づく行動」「法の遵守」「安全の重視」を基本に、主体性と自己責任に基づく良識ある公正な行動によりエクセレント・カンパニーとして広く社会から支持されることを目指します。

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方

倫理に基づく行動と法の遵守、安全品質を徹底します。そして私たちは多様な人格と個性を尊重し、顧客、取引先、社員、株主を含む全てのステークホルダーとの健全で良好な関係を築きます。これらを実現するため、健全でかつ透明、公正、迅速な意思決定を行う最適なコーポレートガバナンスの追求をし続けます。

### コーポレートガバナンス体制図



### 取締役会

取締役および、監査役で構成され、法令、定款および「取締役会規程」に定められた事項について決議を行い、諸規程、制度に基づき業務上の重要事項の執行について承認または決定を行うとともに、取締役の業務執行状況を監督します。

### 常務会

取締役会決議事項について事前審議を行い、取締役会決議事項以外の重要事項を決議します。





## 監査役

取締役の職務の執行を監査し、会社の会計監査を行うとともに取締役会に出席し、意見を述べます。

## 監査室

業務執行部門から独立した立場で、業務の合规性・効率性・経済性・有効性を検証および評価し、その結果を取締役会等に報告します。監査役の職務執行について、その指示に従い補助業務を行います。

## 内部統制・法務・リスク管理部

NRSグループの内部統制システムの構築と運用管理、および経営リスクに関する情報収集・分析ならびに対応への取り組みに関する管理全般を行います。

## リスクマネジメント

リスクを横断的に管理する社長直轄体制として、①リスク管理およびコンプライアンスの適切な執行の監督に関する情報の共有化および強化に向けて議論する場としての「リスク・コンプライアンス委員会」、②情報機器管理に関するISO27001認証のもとでの、「ISMSマネジメント委員会」を設置しています。

### リスク・コンプライアンス委員会

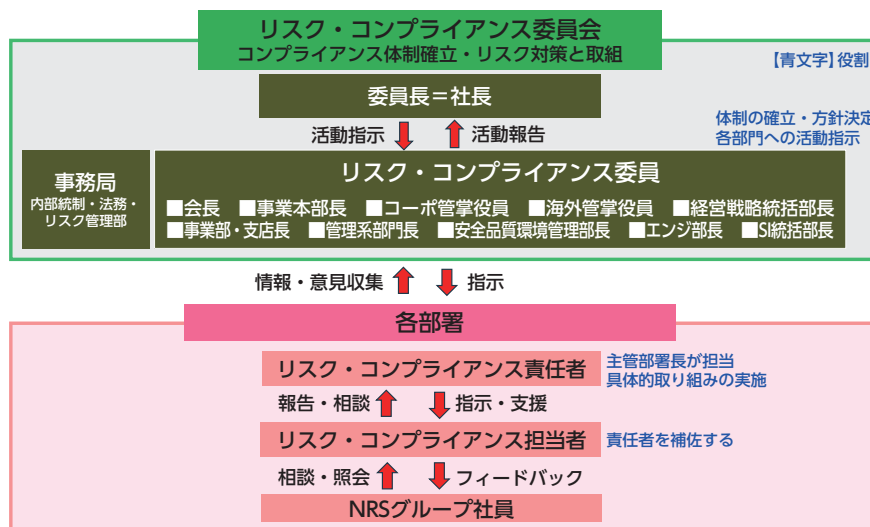
リスク・コンプライアンス委員会は、NRSグループにおける下記1～5の実施を目的に設置しています。

1. リスク管理およびコンプライアンスに関する意識向上の推進
2. コンプライアンス体制の確立と実践
3. グループ全体のリスク対策のための活動方針の決定
4. 各部門への活動指示ならびに活動状況の報告・確認
5. 事業継続計画（BCP）の維持・更新、取り組み浸透の教育訓練、継続的改善に必要なマネジメント活動

2025年9月期は、年間で2回開催、下記取り組みを行い、取締役会で報告をいたしました。

- ・国内外各組織が直面する主要リスクとその取り組み状況の共有化
- ・2025年5月に発生した「サーバーへの不正アクセス案件」について、対策検討および議論
- ・経営危機管理規程の整備
- ・BCPの見直し作業（国内・海外）

### NRSグループ リスクコンプライアンス委員会体制





## BCM活動

危険物・化学製品・薬品等の輸送・保管、およびタンクコンテナ・リースで業界トップレベルのシェアを有するNRSグループは、大規模災害発生時や感染症のリスク下でも事業を早期に復旧し継続することが重大な社会的責任と考えています。当社グループでは、リスク・コンプライアンス委員会において①社員およびその家族・来訪者の安全の確保、②顧客への供給責任を果たし信用を維持する、③経営を早期に安定させ、雇用を守ることを目的としたBCM活動を展開し、「事業継続計画（BCP）」を点検・見直すことで、継続的にサービス・製品を顧客に提供できる体制をとっています。

## 情報セキュリティ

2020年の情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）確立以来、社員への情報セキュリティハンドブックの周知徹底、多要素認証によるアカウント管理、PCやサーバーなどのエンドポイント対策、ゼロトラストツールの導入などで人・機械の両面での対策を講じてきましたが、2025年5月に不正アクセスを受けました。幸いにも情報漏洩は確認されていませんが再発防止のためにネットワーク環境を大幅に見直しました。今後も顧客の大切な情報を絶対に漏洩させない、高度な物流を支えるシステムを止めないという考えのもと、セキュリティレベルのさらなる向上に努めてまいります。

## 緊急事態への対応

当社では緊急事態に備えて毎年、乗務員を中心とした社員向けに「無水フッ酸安全講習会」を開催しています。無水フッ酸のISOタンクコンテナ輸送業務は、当該製品の性状から、輸送途上の事故が重大災害につながる可能性があります。本年度も川崎、神戸、北九州の各事業所で開催しました。第一部は外部講師をお招きしての座学、第二部は緊急時対応訓練および空気呼吸器装着演練を行っています。



能登会長の挨拶



緊急時対応訓練（空気呼吸器装着演練）

## コンプライアンスの徹底

### 内部・外部通報窓口

倫理綱領、法令、社内規程等に違反した行為、または、違反の疑いがある行為を早期に発見し是正を図るための内部通報窓口、および当社役職員によるコンプライアンスに反する行為や人権侵害にあたる行為に対し、迅速な対応と救済を目的とした外部通報窓口を設置しています。

- ・内部通報窓口：国内外弁護士事務所に通報窓口を設置し、社員へ通知。国内は内部統制・法務・リスク管理部内にも窓口を設置
- ・外部通報窓口：国内外弁護士事務所に通報窓口を設置し、NRSグループホームページに掲載
- ・通報・告発者の権利保護：公益通報者保護規程にて規定し、ホームページに記載

### 新輸出入管理体制による安全保障貿易管理の強化

国際社会が取り組む大量破壊兵器や関連貨物の不拡散という重要課題を会社として再認識し、安全保障貿易管理を強化するための取り組みを行っています。

1. 最新法令に準拠した安全保障輸出管理規程により、組織体制、手続き、監査、教育、文書管理など管理体制を明確化しています。
2. 輸出承認手続きをシステム化（名称：楽々ワークフロー輸出管理）。輸入記録も含め、WEB上で文書ペーパーレス管理を行っています。
3. 定期的な国内全社員対象のWEB勉強会による意識向上に努めています。
4. 法令改正情報の入手と適時の伝達。今後は内部監査により、さらなる改善を図っていきます。

### 各種研修・eラーニング

昨今の企業不祥事や、社会規範軽視によるコンプライアンス違反の増大を鑑み、当社社員のリテラシーを高めるため、国内社員を対象に「コンプライアンス研修 企業倫理eラーニング」を実施しました。また、NRSグループ社員としてのコンプライアンス意識向上のため、階層別研修を実施しました。

### 企業倫理に関する教育の実施

2025年度 eラーニング：企業倫理（国内全社員対象）受講率97%（924名/951名中）

新入社員コンプライアンス研修

部門別・海外赴任者向けコンプライアンス研修

2024年度 eラーニング：贈収賄防止（国内全社員対象）受講率90%（875名/973名中）

新入社員コンプライアンス研修

階層別コンプライアンス研修



環境

NRSグループCO <sub>2</sub> 排出量 (単位：t-CO <sub>2</sub> )			
	2023年度	2024年度	2025年度
Scope1+2	16,320	16,548	16,877

国内グループCO <sub>2</sub> 排出量 (単位：t-CO <sub>2</sub> )			
	2023年度	2024年度	2025年度
Scope1+2	14,562	14,725	14,909
Scope1	9,417	9,851	10,170
Scope2	5,145	4,874	4,739

2025年4月－9月は2024年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる電気事業者別排出係数を用いています。

海外グループCO <sub>2</sub> 排出量 (単位：t-CO <sub>2</sub> )			
	2023年度	2024年度	2025年度
Scope1+2	1,758	1,823	1,968
Scope1	1,163	1,287	1,118
Scope2	595	535	849

NRSグループエネルギー使用量 (単位：各単位)			
	2023年度	2024年度	2025年度
エネルギー使用総量 (GJ)	268,202	270,169	279,860
電気 (千kWh)	12,554	12,159	12,985
うち太陽光自家発電 (千kWh)	815	909	937
うち非化石証書 (千kWh)	230	1,601	2,260
蒸気 (千t)	1.8	1.2	1.0
揮発油 (kL)	66	57	52
重油 (kL)	158	161	179
灯油 (kL)	17	9	13
軽油 (kL)	3,802	4,010	4,069
LPG (t)	29	22	23
都市ガス (千m <sup>3</sup> )	21	23	25

NRSグループ水使用量 (単位：千m³)

	2023年度	2024年度	2025年度
水道水	48	53	55
工業用水	61	53	54

国内グループ産業廃棄物 (単位：t)

	2022年	2023年	2024年
総排出量	826	772	656
うち再生利用量			612
一般産業廃棄物量	694	689	588
有害廃棄物排出量	131	83	68

※廃棄物処理法で定める特別管理産業廃棄物の排出量としています。

対象範囲は国内グループ  
算出期間は、4月～3月

環境法令違反件数

	2023年度	2024年度	2025年度
	0	0	0

ISO14001認証取得拠点

2025年度		
本社	川崎ConTech	群馬物流センター
千葉物流センター	神戸ConTech	中部物流センター
千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫	土気流通センター	中部物流センター東海倉庫
大阪物流センター	周南ConTech	九州物流センター
横浜物流センター	高石ケミポート	

全29拠点中14拠点で取得

グリーン経営認証取得拠点

2025年度	
千葉事業所	北九州事業所
大阪事業所	新潟事業所
川崎事業所	名古屋事業所
神戸事業所	群馬事業所



社 会

NRSグループ社員数 (海外、非正規社員含む) (単位：名)

	2023年度	2024年度	2025年度
NRSグループ社員数	1,153	1,165	1,175

人財関連データ

		2023年度	2024年度	2025年度
社員数 (名)	男性	828	838	853
	女性	653	639	643
平均年齢 (歳)		41	41	41
平均勤続年数 (年)		13	13	13
新卒採用数 (名)	男性	36	36	35
	女性	16	20	19
中途採用数 (名)	男性	20	16	16
	女性	22	17	14
離職者数*1 (名)	男性	18	8	10
	女性	4	9	4
女性管理職比率 (%)		31	39	40
女性管理職数 (名)		8.7	8.6	9.3
グローバルスタッフ 在籍者数 (名)		14	15	17
障がい者雇用率*2 (%)		19	21	24
有給休暇 平均取得日数*3 (日)		2.07	2.04	1.28
育児休業取得率 (%)	男性	10	10	11
	女性	46	62	65
育児休業復職率 (%)		22	38	50
男女賃金格差 (%)	男性	100	100	100
	女性	100	100	100

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル  
海外と国内非正規社員は含みません  
\*1 定年者を除く \*2 対象範囲はNRSのみ \*3 算出期間は4月－3月 夏季休暇（3日分）等特別有給休暇日は除く

社会貢献活動支出額 (マッチング募金含む)

	2023年度	2024年度	2025年度
社会貢献活動支出額	4,159,370円	10,066,000円	726,000円

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル、NRSVCも含む

労働災害指数 度数率

	2023年度	2024年度	2025年度
労働災害指数 度数率	0.55	0.00	4.36

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル  
2024年平均度数率 (厚生労働省 労働災害動向調査より)  
運輸業・郵便業 : 3.55 全産業平均 : 2.10

危険物取扱者乙種4類 (甲種含む) 取得率

	2023年度	2024年度	2025年度
NRS	87%	85%	84%
NRS物流	100%	100%	100%

ISO9001認証 取得一覧

2025年度		
本社	中部物流センター	川崎事業所
千葉物流センター	中部物流センター 東海倉庫	大阪事業所
千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫	九州物流センター	高石ケミポート
横浜物流センター	川崎ConTech	名古屋ケミポート
大阪物流センター	神戸ConTech	東京液体化成品センター 川崎営業所
群馬物流センター	周南ConTech	東京液体化成品センター 名古屋営業所
土気流通センター		

全29拠点中19拠点で取得





ガバナンス

経営体制 (単位：名)

	2023年度	2024年度	2025年度
取締役	8	8	8
(うち女性)	(1)	(1)	(1)
(うち社外取締役)	(1)	(1)	(1)
監査役	2	2	2

対象範囲はNRS

内部通報件数 (単位：件)

	2023年度	2024年度	2025年度
内部通報件数	13	8	6



- 1946年、戦後の荒廃の中、日本再興への使命感とロマンを胸に、日本陸運産業として現NRSが創業
- スタート時の石油輸送から1970年代、化学品スペシャリティのバルク（大量）輸送へ事業構造変革
- 輸送形態・規模を当時のタンクローリー中心からコンテナ（大量）輸送へ転換、本格的なバルク事業の先駆者として業界をリード、NRSの礎となる
- 事業形態は、創業からの貨物・タンク輸送からバルク事業・倉庫保管事業（1972）・コンテナ事業・フォワーディングへと拡大、化学品物流業界をリードする組織・企業として揺るがぬ地位を獲得

バルク事業を推進・拡張する上では課題（規制）も多く、その過程は決して平坦なものではありませんでした

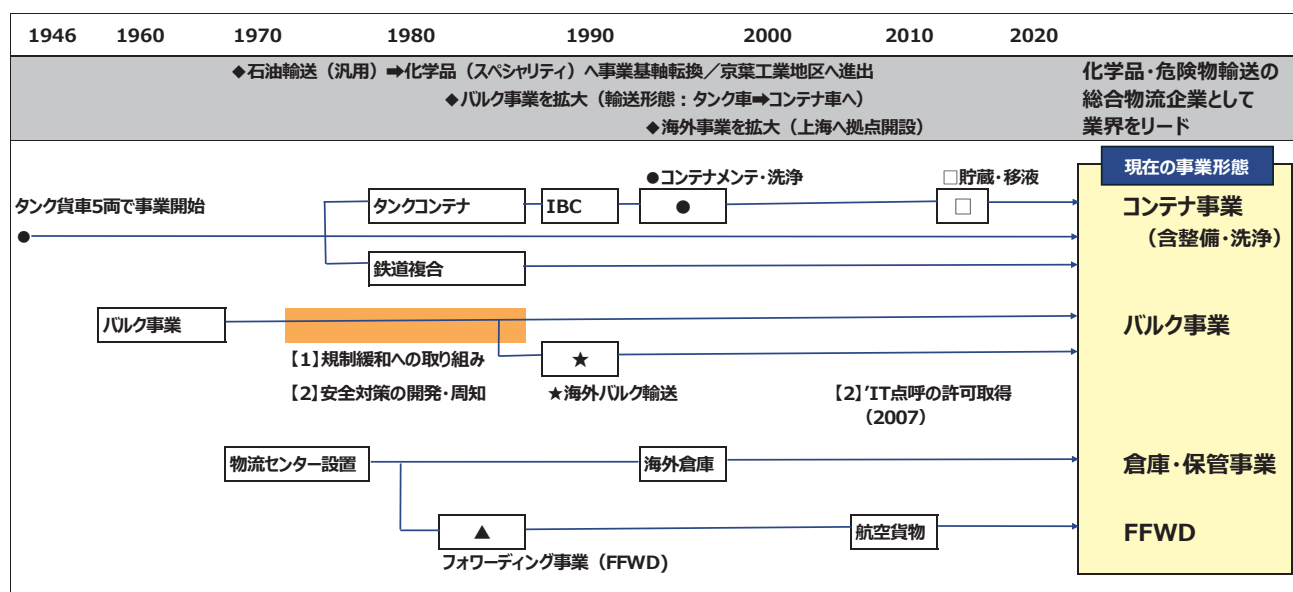
課題の一つは、コンテナ輸送転換期の国内輸送規制緩和への奔走（24tシャーシの開発）

もう一つは、大量陸上輸送に伴う車体の壮行不安全性への対応でした（横転事故を経験）

ここではまず当社の総合物流企業への足跡（下表）、そのあと特筆すべき規制緩和への取り組みを紹介します

### 当社の分岐点

- ◆ 1946年 創業
- ◆ 1970年代 化学品輸送へ事業転換期
- ◆ 1980年代 **バルク事業拡大期**
- ◆ 1990年代 海外事業進出期
- ◆ 2025年 アリゾナ（米）拠点開設



## ●規制緩和への取り組み

バルク（大量）輸送への障壁は、大型貨物車両の国内運用制限、公道での総重量制限、取扱い品目によってはの運送量上限値が挙げられます

また、輸送時の走行安定性の確保も同時に発生する・影響を受ける課題となっておりました  
NRSではこれらの課題を受け止め、確実に解決・解消し、バルク事業を経営の中核へ位置付け、今後も成長セグメントとして推進してまいります

	ISOタンクコンテナ運用規制	重量規制		関連する重要事項 安全対策	NRSの関わり																		
		本体	取扱い物																				
1982	消防庁19号通達 ●1/条件付きで国内運用許可	<div>最大積載量24tのISOタンクコンテナの国内運用許可</div> <div>（IBC:250～3,000ℓの中型タンクの総称）</div> <div>●2IBCレンタル開始・1Kℓ容器開発</div> <div>●3：国際海上コンテナ（★輸出入貨物限定）</div> <div>最大積載量</div> <div>20ftコンテナ：20.32t → 24t</div> <div>40ftコンテナ：24t⇒30.48t</div> <div>ISO20ftタンクコンテナフル積載時</div> <div>危険物運用タンクコンテナ（★）</div> <div>最大積載量：24t⇒30.48t</div> <div>2002</div> <div>■毒劇物取締法施行令から</div> <div>IMO基準に適合したISOタンクコンテナであれば輸送容量の制限除外の許可</div> <div>●3：★輸出入貨物限定の解除</div> <div>規制解除までの年数</div> <div>1985年⇒2004年</div>			<div>タンク車⇒コンテナ車へ（バルク物流本流期到来）</div> <div>タンクローリー（1車1品目輸送）の弱点改善</div> <div>コンテナ車導入で複数品目の輸送実現</div> <div>（輸送効率改善・固定費削減）</div> <div>●1：移動タンク貯蔵所（タンクローリー規制と同じ）</div> <div>●1：完成検査の簡素化等18項目の規制緩和の達成</div> <div>●3：最大積載量20.32tではタンクコンテナのメリットなし＝輸送可能数量は変わらない</div> <div>単位：t</div> <table><tr><th></th><th>最大積載重量</th><th>本体重量</th><th>積載貨物総重量</th><th>容器重量</th><th>輸送可能総重量</th></tr><tr><td>ISOタンクコンテナ</td><td>20.32</td><td>3.5</td><td>16.82</td><td>0</td><td>16.82</td></tr><tr><td>20ftトリスチールコンテナ</td><td>20.32</td><td>2.2</td><td>18.12</td><td>1.6</td><td>16.52</td></tr></table> <div>●日本危険物コンテナ協会事務局として、関係省庁と交渉した成果</div> <div>▲（欧州製品は国内仕様と合致せず、国内メーカー（日本トレックス社）と共同開発開始</div> <div>●3：最大積載量を30.48tまで引き上げ目づつ輸出入貨物限定の制約解除の達成</div> <div>さらに</div> <div>▲積載量増量に伴う走行安全性の不安定さ解消への対応として横転抑止装置付きシャーシの開発・普及</div> <div>◆開発および導入の目的</div> <div>①乗務員の健康管理・当日の状態把握</div> <div>②点検する側の工数削減</div>		最大積載重量	本体重量	積載貨物総重量	容器重量	輸送可能総重量	ISOタンクコンテナ	20.32	3.5	16.82	0	16.82	20ftトリスチールコンテナ	20.32	2.2	18.12	1.6	16.52
	最大積載重量				本体重量	積載貨物総重量	容器重量	輸送可能総重量															
ISOタンクコンテナ	20.32				3.5	16.82	0	16.82															
20ftトリスチールコンテナ	20.32				2.2	18.12	1.6	16.52															
1984	24tの20ftタンクコンテナの40ft専用シャーシによる運行許可																						
1985																							
1988	政令第358号																						
1989	自治省令第5号																						
1992	●1/19号通達廃止 （53号通達で）																						
1994	IBC-PJ発足																						
1995	IBCでの危険物国内運用許可																						
1998																							
1999																							
2002																							
2003																							
2004																							
2007																							

最後に ここに記した課題への取り組みやソリューション創出への行動は、現在もNRSのDNAとして受け継がれています  
これからもお客様を始めとするステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会創りへの貢献を続けてまいります

世界一を目指して

